

額田の城下町

額田城跡保存会 会報部会

～目次～

額田城跡に想いをよせて 1P

2P

歴代の額田城主の墓はどこにあるのでしょうか 3P

3P

額田城跡保存計画の概要／令和3年度決算状況 4P

4P



額田城跡に想いをよせて

木名瀬 貴久子

かつて「常陸風土記」によつて、理想郷のようだうわれた郷土茨城、その県北部に位置し、歴史豊かな我が町額田にお城がありました。

鎌倉時代の中頃、北条氏が政権を担つてゐること、佐竹氏がお城を造りました。一一四九年頃の事です。この時期は、政権争いや領土争いで、世の中が戦まみれだったようですが、後醍醐天皇が即位し、鎌倉幕府が終わります。

そして室町時代となりますが、そんな中、額田氏は脈々と力を維持し、一七〇年間も城下を守つていたようです。

戦乱の世の中で、佐竹氏城主の額田城が落城し、現在の額田城跡はその二年後、小野崎氏によつて再び築城され、織田信長や豊臣秀吉の戦国の時代にあつて、またまた本家佐竹氏に滅ぼされる一五九一年頃まで再び一七〇年間も維持していいたようです。延べ三四〇年もの間、お城があつた額田、想像するに、城下町は栄えていたでしようか？

何代もの美しいお姫様がいて、たくさんのお話があつたかもしません。

落城はしても、後に徳川光圀公が愛娘の万姫様を嫁がせたと言う鈴木御殿の裕福な暮らしさは、紅花栽培で財を成したと言うことからしても、豊かな城下町であつたろうと伺えます。

こんな素晴らしい豊かな歴史を持っている我が町額田、何とかして美しいお城跡にと、多くの方々の手で、整備されていることに本当に有難く、嬉しく思います。

先般、水戸城の丸跡が、見事に復元され「歴史ロード」が出来ました。我が町額田は、歴史の宝庫です。子や孫達が日々に自慢し合えて、たくさんの人達に歴史を感じて頂くために、整備を更に整えて行かねばならないと実感致します。

茨城県、国
までも一体となり、額田城
が、見事に復元できることを、ただただ願うばかりです。



「歴代の額田城主の墓はどこにあるのでしょうか？」

那珂市歴史民俗資料館

学芸員 仲田昭一

日頃、額田城跡保存会の皆さんには、城跡内および遊歩道の草刈り、倒木処理等整備に御尽力いただいておりますこと、深く感謝申し上げます。また、額田地区まちづくり委員会との協力により、「額田活性化プロジェクト2030」の活動にも大いに期待しております。市の方では、城跡整備計画により近く本丸部分の表面調査や試掘に入る段階です。その結果を待つて「城跡の整備や復元」について具体的に動いていきます。地区の皆さんには、城跡の活用方法などのご相談は次の段階になります。現状では具体的な御協力ををお願いするに至っておりませんことをご承知いただきたいと思います。

ところで、額田城主は佐竹氏、小野崎氏統、小野崎氏の養子となつた江戸氏と3系統とがあり、それぞれに菩提寺として放光寺、鱗勝院、阿弥陀寺、上宮寺などを持つおりました。小野崎氏としては、浄土真宗を信仰していたのではないかと思われます。しかし、各時代の額田城主に関する墓所は、何故か全く不明です。

各家々は、様々な創意工夫や対応策を重ねて家系や家の精神を繋いでいることが苦心していますが、少子高齢化が進むにつれてそれは実に深刻な問題となっています。文化財を保護していくことも同様並大抵のことではありません。

最近では、「墓はいらない」「今の墓には入らない」などといって、樹木葬や散骨葬が叫ばれています。家や家庭の存在も危うくなつて来ています。個人が主体となるように各種法律の改定が進んでいます。自治会も集落も、果ては神社も菩提寺も見放されています。時代が来るのでしょうか。

同時期の領主である笠間氏や真壁氏、鹿島氏、宇都宮氏などの墓はまとめて保存・管理されています。

額田の最後の領主小野崎昭通は水戸藩に仕えますので、昭通以降の墓所は、水戸藩士が眠る水戸市酒門共有墓地にあります。それも、額田氏は近年後継者を亡くされたため、残念ながら墓守はなされていないのが現状です。

各家々は、様々な創意工夫や対応策を重ねて家系や家の精神を繋いでいることが苦心していますが、少子高齢化が進むにつれてそれは実に深刻な問題となっています。文化財を保護していくことも同様並大抵のことではありません。

最近では、「墓はいらない」「今の墓には入らない」などといって、樹木葬や散骨葬が叫ばれています。家や家庭の存在も危うくなつて来ています。個人が主体となるように各種法律の改定が進んでいます。自治会も集落も、果ては神社も菩提寺も見放されています。時代が来るのでしょうか。

暑い夏がやってきましたね。城跡の山でもあじさいが綺麗に咲いています。花壇も今年はリニューアルし、サルビア、マリー・ゴールド、ジニアなどが暑さにも負けず元気に育っています。私たちも草と格闘しながら花の手入れに汗を流しています。ちょっと散歩がてら城跡に足を運んでみませんか。これから山百合、姥百合が咲いてきます。

去る六月五日（日）サスガカミスガに出店しました。城跡の遊歩道や、四季の花々の写真を展示、パンフレットを配布しました。久しぶりに、賑わいが戻りつつ有るようを感じられました。展示を目にされた方々に額田城跡を知つていただき、更に、少しでも多くの方々が城跡を訪れてくださることを期待しています。

五月二十四日、額田城跡を訪れた公民館の歴史講座受講者の方々を、保存会女性陣でおもてなしをさせて頂きました。



額田城跡にひむすいー

むとうみつ子

「額田にはお城があった」という誇りを、私たち額田や近隣の多くの人びとは抱いている。なんとありがたい歴史だね。

小さな台地に多くの寺社仏閣をする那珂市額田は、古い歴史を持つた地区である。額田は久慈川や有ヶ池に囲まれた台地であり要塞であった。この額田の台地に、さらに内堀や外堀を備えて額田城は築城されたのだ。

額田城は、佐竹氏から分家した額田義直によって建長年間（一二四九～一二五六）につくられた。徳川家康により江戸幕府が興された一六〇三年よりもはるかに歴史があることがおわかりいただけるだろう。

額田城跡の存在は以前から知られてはいたが、現在のように整えられて公開されるまでには長年の月日がかっている。年月だけではない。なんといつても額田城跡は広い。本丸跡面積約一六〇〇〇m²、指定区域面積約七七〇〇〇m²もある。荒れ果てた地をここまで美しく整えるには幾多の苦労があったのだ。



花々を植え育て、遊歩道を整備し、

現在の額田城跡があるのは額田城に惚れ込んだ多くの有志の人々の

熱い想いと地道な活動の賜なのである。

約800年も前の人々が、この台地で豊かに暮らしていたという事実、その名残の長い歴史を持つ寺社仏閣、そして極めつけが額田城跡である。厳かな佇まいを持つこの山城の跡は、静けさの中においてこそかえって中世の賑わいへと思いをさせなってくれる。物のない時代に、豊かな文化を作りあげ、城下町を発展させた額田氏（及び後の城主小野崎氏）の手腕は、居城であった額田城の城跡が見事に物語ってくれている。

額田城跡ここにあり！

われらが先人の喜怒哀樂がつまつたこの城跡を、私たちはさらに大切に守り、歴史地区である郷土を未来へとつなげていきたい。

早朝の散歩には多少湿気がある。お堀の斜面からによきによきと天に向かって、直径30センチ級のスギの大木達が、前日数百キロリットルの水を吸い上げたのである。



堀底散歩 一服の涼を求めて

副会長 関 勝徳

ここは、阿弥陀寺から侵入して二の丸へ向かう途中、右手に本丸を見上げるお堀の中の遊歩道である。城跡内で特に圧巻の法面が両脇に迫る。小心者の小生にはここを乗り越えて本丸に侵入しようとは全く思えない。ましてや、我々額田城跡保存会メンバーといえども、この法面の草刈りは拒絶を見る。難攻不落のお堀なのである。

本丸とお堀との高低差は実に6メートルにも達する。先人たちは、これを本当に人力で作ったのか？ 現在の重機をもってしても、数カ月はかかるだろう。いや、無理かもしれない。なぜなら重機が侵入する場所がそもそも無いのである。当時の人足や財力に敬意を表し、遠く思いを馳せる。

これが早朝にお堀の複雑な形状に相まって多数の樹木から湿度飽和状態となり周辺に水蒸気を発生させる。その水が更にお堀の草木に降り注がれ、常にうつそうとした状況を形成している。盛夏朝、この中を小風とともに散歩が実に心地よい。途中で発見したペットボトルゴミに興ざめして現実に戻り、回収して帰路に着いた。

額田城跡保存計画の概要

令和4年から第2期の管理計画が令和8年まで行われます。本丸跡地を昨年には全て民間から那珂市が買い上げて公有財産になりました。往時の額田城を知るための学術調査として発掘調査などを実施して歴史自然公園としての整備を進めて貴重な歴史的財産を次世代に残す方針です。

史跡の管理は市民の貴重な財産ですと同時に、現在の状態を活かしながら本丸以外の地権者、額田城跡保存会、額田地区まちづくり委員会などの関係者及び市の「協働による管理」を目指します。

保存管理の方針として、平成23年に「伊達政宗起請文」や「額田城陥没の記」が発見されてますが、当時の状況を示す資料がほとんどない状態です。よって新たな資料が見つかるまでは「本史跡を正しく後世に引き継ぐ」ことを優先し、その後具体的な整備を検討していきます。

1, 広葉樹林を残し、四季折々の景色を楽しむこととする。

2, 学術調査を進めて原形に迫り、史跡等の復元を図る。

3, 2の丸は東側にイベント広場などを検討していく。

また史跡の保存管理は次の視点に立って進めます。

1, 史跡の歴史を生かしたひと・まちづくりの場とする。

2, 地域の歴史を学ぶ場とする。

3, 生涯学習活動拠点の場とする。

4, 往時の城郭体験を通じて史跡を継承していく場とする。

5, 自然環境の保全を図る事とする。

周辺には額田神社やお寺・阿弥陀寺、鱗勝院、引接寺、毘盧遮那寺など、県指定の鈴木家住宅、市指定の鈴木家ヒイラギの文化財が点在しており、一体的な整備・活用を期待します。 会長 武藤博光



令和3年度額田城跡保存会 決算状況をお知らせします。

収入の部

項目	予算額(円)	決算額(円)	差引増減(円)	摘要
前年度繰越金	35,138	35,138	0	
年会費	60,000	60,000	0	60戸×1,000円
賛助会費	48,000	46,000	△2,000	46戸×1,000円
雑収入	0	0	0	
合計	143,138	141,138	△2,000	

支出の部

項目	予算額(円)	決算額(円)	差引増減(円)	摘要
会議費	15,000	2,590	12,410	
事業費	120,000	106,293	13,707	奉仕作業、機材整備、整備振興、会報紙発行等
事務費	6,000	4,713	1,287	消耗品、切手等
予備日	2,138	0	2,138	
合計	143,138	113,596	29,542	

(収入合計) 141,138円 - (支出合計) 113,596円 = (差引残高) 27,542円

差引残高の27,542円は、令和4年度に繰り越します。

編集後記

今般、額田の城下町を発刊するにあたり各分野の方にはお世話になりましたありがとうございました。おかげ様で、保存会には地元の皆様にとどまらず菅谷や後台、常陸大宮市、常陸太田市、日立市、ひたちなか市からもボランティア活動に参加されております。単なる奉仕作業というよりも歴史的価値の高い額田城跡という過去への想いを巡らせて活動しています。四季折々の草花も咲き誇ってますので多くの皆様のご来場をお待ちしております。 会長 武藤博光